



「私なりの創造性を発揮できれば」と川口副市長

町と市民を元気に

40年の行政経験を生かして

「2人の副市長はいわば車の両輪。鈴木副市長とともに、市長が掲げるマニフェストを達成できるように精いっぱい補佐したい」

約10年間にわたって市役所職員を勤め、定年まで1年2カ月を残して退職。1月25日、副市長に就任した。竹中市政2期目を支え、「刈谷の町を、市民を元気にするお手伝いをした」と抱負を語る。

刈谷生まれ。高校卒業後、1971年に市役所入

川口孝嗣さん

所。社会教育の青少年担当を長く務め、市民活動も積極的にサポートした。「これが私のベースになっています」。次世代育成部長、企画部長など要職を歴任した。

副市長として主に企画財政部、総務部、市民活動部、福祉健康部、次世代育成部を所管。職員時代に深く関わった部署も多い。「現場で蓄積された経験で特に優れたものはありませんが、経験を役立てることはできると思います」。就任後はまめふるるの心意気で向かう。

刈谷市の副市長2人が新しい顔ぶれに代わりました。

川口孝嗣さん(59)は市役所元職員。長年の現場で培われた行政手腕に期待されています。鈴木直樹さん(60)は民間企業勤務を経て、刈谷工業高校校長を務めました。柔軟で斬新な発想力と前向きな姿勢が持ち味です。任期は1年。竹中良則市長を補佐する両副市長を紹介します。

新副市長

の横顔

人づくりに情熱

校長から転身、経験を市政に

「職員の人たちはそれぞれ、4月1日、副市長に就任した。経済環境部、建生懸命仕事をしています。若干、前例主義的なところも感じますが、レスポンスも速く、思ったよりスピード感もある。新しい考えを導入しようという意欲も見えます。私は皆さんの声に謙虚に耳を傾け、また、今までとは違う切り口で突っ込み、道筋をつくっていく、それが自分の役割かなと思っています」

「職員の人たちはそれぞれ、4月1日、副市長に就任した。経済環境部、建生懸命仕事をしています。若干、前例主義的なところも感じますが、レスポンスも速く、思ったよりスピード感もある。新しい考えを導入しようという意欲も見えます。私は皆さんの声に謙虚に耳を傾け、また、今までとは違う切り口で突っ込み、道筋をつくっていく、それが自分の役割かなと思っています」

刈谷工業高校校長から転



「職員を支える伯楽になりたい」と鈴木副市長

鈴木直樹さん

「職員の人たちはそれぞれ、4月1日、副市長に就任した。経済環境部、建生懸命仕事をしています。若干、前例主義的なところも感じますが、レスポンスも速く、思ったよりスピード感もある。新しい考えを導入しようという意欲も見えます。私は皆さんの声に謙虚に耳を傾け、また、今までとは違う切り口で突っ込み、道筋をつくっていく、それが自分の役割かなと思っています」

「職員の人たちはそれぞれ、4月1日、副市長に就任した。経済環境部、建生懸命仕事をしています。若干、前例主義的なところも感じますが、レスポンスも速く、思ったよりスピード感もある。新しい考えを導入しようという意欲も見えます。私は皆さんの声に謙虚に耳を傾け、また、今までとは違う切り口で突っ込み、道筋をつくっていく、それが自分の役割かなと思っています」